

有明海漁業実態調査

魚類(マダイ・ブリ・タチウオ)操業状況調査

土井大生

有明海佐賀県海域の主幹漁業は、ノリ養殖であるが、かつてノリ養殖を除いた漁獲量については、タイラギ・アゲマキ・ウミタケ・サルボウをはじめとした有明海特産二枚貝類が主体であった。しかしながら、これら二枚貝類の漁獲量は、1997年以降年々減少し、構成魚種に変化が見られている。佐賀県農林水産統計によると、近年は、二枚貝類に代わり、ビゼンクラゲやシバエビの割合が増加している¹⁾。また、統計には出てきていないものの、漁業者への聞き取りによると、マダイ・ブリ・タチウオ等の魚類の漁獲が増加している。

しかしながら、有明海佐賀県海域における、これら魚類に関する操業状況については報告がない。そこで、マダイ・ブリ・タチウオを対象に漁をしている漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況について調査したので報告する。

方 法

調査では、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する漁業者を選定(各魚種で2名ずつ)し、2024年4月～2025年3月までの期間、操業場所・漁獲量・出荷先等について操業日誌の記入を依頼した。得られた日誌の情報を基に、操業場所別のCPUE(kg/日/隻)と出荷状況を整理した。

結 果

1) マダイ

操業場所別のCPUE(kg/日/隻)を図1に、出荷状況を表1に示した。マダイの漁獲は、5～7月の間、湾奥西部から東部にかけて2.85～32.1 kg/日/隻で確認、11～12月の間で1.6～5.6kg/日/隻で確認、3月に6.3kg/日/隻で確認された。

出荷単価は、月によって変動はあり、150～2,200円/kg前後で推移していた。

2) ブリ

期間を通して、操業を確認できなかった。日誌の記入を依頼した漁業者への聞き取りによると、今年度は、操業海域への回遊が確認されず、操業を控えたとのことであった。来年度も継続して調査を実施し、操業状況を把握する予定である。

3) タチウオ

期間を通して、操業を確認できなかった。日誌の記入を依頼した漁業者への聞き取りによると、今年度は、操業海域への回遊が確認されず、操業を控えたとのことであった。来年度も継続して調査を実施し、操業状況を把握する予定である。

文 献

- 1) 山口大輝・大渡功晟(2024):2021,2022年のビゼンクラゲ漁の操業実態. 佐賀有明水振セ研報, (31), 48-55

表1 マダイの出荷状況

月	出荷先	出荷単価(円/kg)
5	市場	150～2,000
6	市場	600～1,200
11	市場	800
12	市場	400～1,200
3	市場	2,200

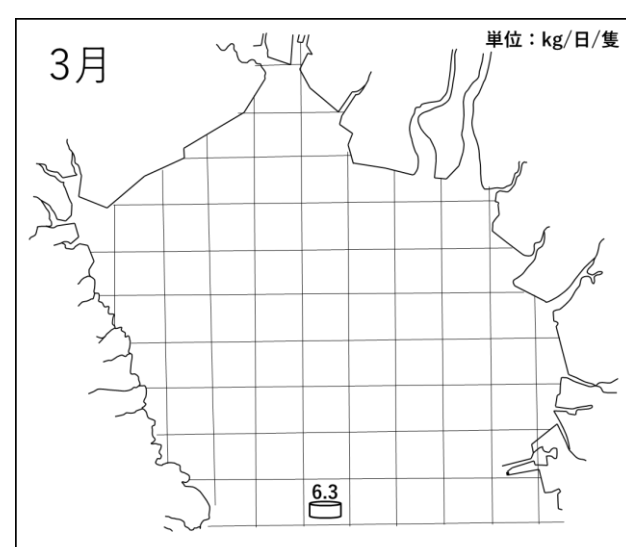
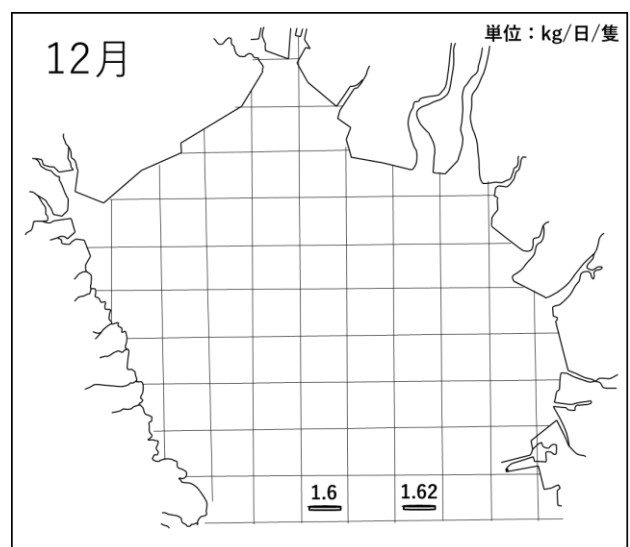
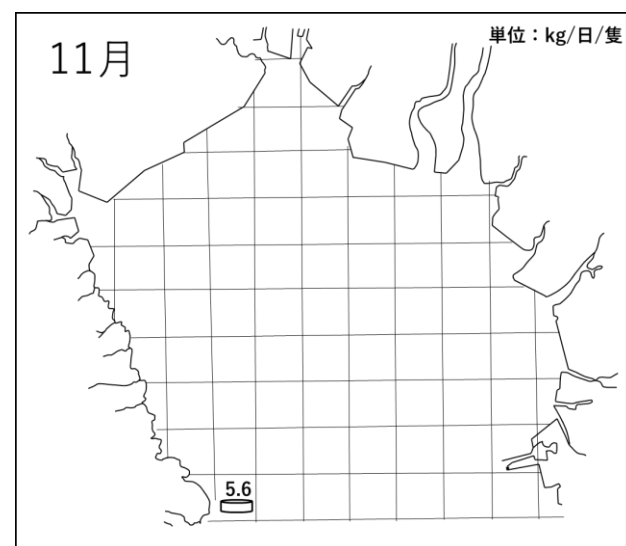
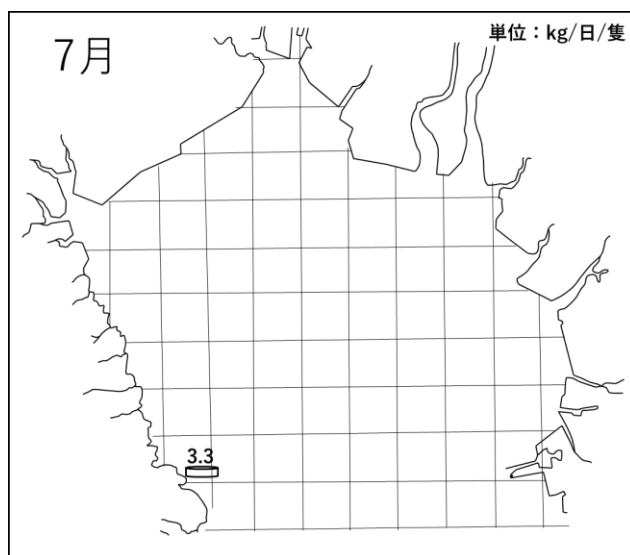
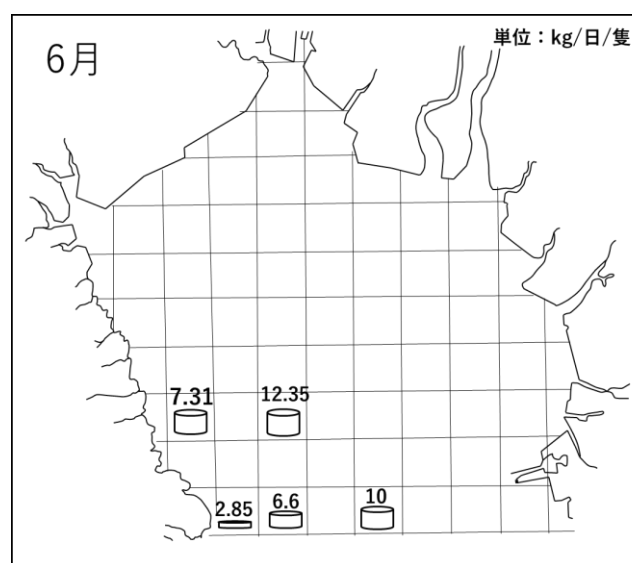
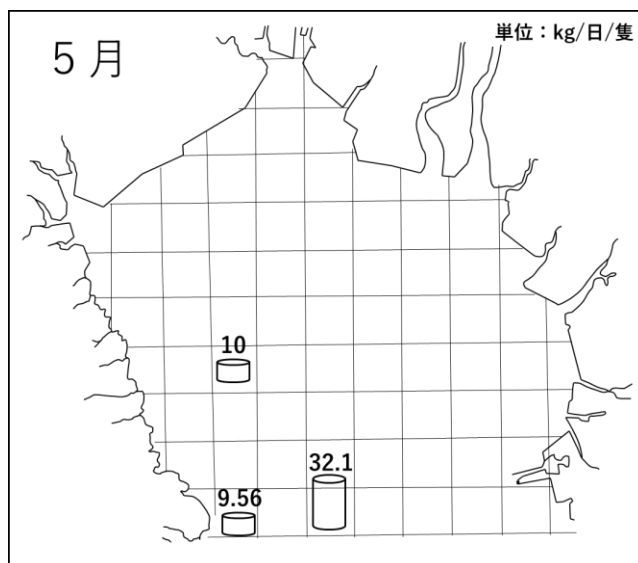


図1 マダイの操業場所別のCPUE (kg/日/隻)